

## 1. 授業評価の実施状況

- ・評価項目：アンケートを添付資料の表 1 に示す。
- ・実施科目数：126 科目
- ・回収率：平均 91.8%

## 2. 対象と方法

対象は、島根リハビリテーション学院に在籍する 1～3 年生両学科 164 名（令和 5 年度 3 月末在籍数）とした。

科目は、理学療法学科と作業療法学科の学生が共通して受講する共通科目、理学療法学科の学生のみが受講する PT 専門科目、作業療法学科の学生のみが受講する OT 専門科目の 3 つに分類した。

対象者には事前に、個人特定されない配慮を説明した上で実施した。アンケートの実施は、最終授業終了後にアンケート回答サイトの Web リンクから回答を行わせた。

アンケートは、「学生の姿勢」と「授業に対する評価」の 2 項目に分かれ、各項目の質問文数は「学生の姿勢」が 5、「授業に対する評価」が 15 の合計 20 であった（表 1）。学生には各項目の質問文に対して、5 段階のリッカート尺度（5 点：そう思う、4 点：ややそう思う、3 点：どちらでもない、2 点：あまりそう思わない、1 点：そう思わない）のうちもっとも当てはまるものを選択させた。得点は、質問文ごとの平均点と項目ごとの平均点を算出することで得られ、最低点は 1 点、最高点は 5 点であり、得点が高いほど学生による授業評価が高いことを示す。

## 3. 学生による授業評価結果

結果を添付資料の表 2～11 に示す。

## 4. 結果

### 1) 学年比較

共通科目、PT 専門科目、OT 専門科目におけるアンケート項目の平均得点を、学年別に分類し、かつ令和 4 年度と令和 5 年度を比較した結果を以下に示す（表 2）。

令和 5 年度の「学生の姿勢」のうち、4.0 点未満を示したのは、1 年次の共通科目、PT 専門科目であった。4.5 点以上を示した科目、0.5 点以上向上した科目はなかった。「授業に対する評価」のうち、4.0 点未満を示した科目はなかった。4.5 点以上を示したのは 1 年次の OT 専門科目、2 年次と 3 年次の PT 専門科目であった。「授業に対する評価」のうち、令和 5 年度の 3 年次 OT 専門科目の間 6、19、20 は令和 4 年度に比べて 0.5 点以上向上がみられた。

### 2) 科目の年度比較 1 年次科目

1 年次の共通科目、PT 専門科目、OT 専門科目におけるアンケート項目の平均得点を、学年別に分類し、かつ令和 4 年度と令和 5 年度を比較した結果を以下に示す（表 3-5）。

共通科目では、令和 5 年度の「学生の姿勢」の平均得点のうち、4.0 点未満を示したのは、27 科目中 24 科目(88.8%)であった。4.5 点以上の科目はなかった。これらのうち、令和 4 年度に比べて 0.5 点以上

の向上がみられたのは、教育学の間 4 であった(表 3-4)。また、「授業に対する評価」の平均得点のうち 4.0 点未満を示したのは、27 科目中 4 科目(14.8%)であった。4.5 点以上の科目は、27 科目中 3 科目(11.1%)であった。これらのうち、令和 4 年度に比べて 0.5 点以上の向上がみられた質問項目があったのは、27 科目中 3 科目(11.1%)であった(表 3-4)。

PT 専門科目では、令和 5 年度の「学生の姿勢」のうち、4.0 点未満を示したのは、5 科目中 3 科目(60.0%)であった。4.5 点以上の科目はなかった。これらのうち、令和 4 年度に比べて 0.5 点以上の向上がみられた質問項目があった科目は、5 科目中 1 科目(20.0%)であった(表 5)。また、「授業に対する評価」の平均得点のうち 4.0 点未満を示したのは、5 科目中 0 科目(0.0%)であった。4.5 点以上の科目は、5 科目中 2 科目(40.0%)であった。これらのうち、令和 4 年度に比べて 0.5 点以上の向上がみられた質問項目があった科目はなかった(表 5)。

OT 専門科目では、令和 5 年度の「学生の姿勢」のうち、4.0 点未満を示したのは、7 科目中 1 科目(14.3%)であった。4.5 点以上の科目はなかった。これらのうち、令和 4 年度に比べて 0.5 点以上の向上がみられた質問項目があった科目は、7 科目中 1 科目(14.3%)であった(表 5)。また、「授業に対する評価」の平均得点のうち 4.0 点未満を示したのは、7 科目中 0 科目(0.0%)であった。4.5 点以上の科目は、7 科目中 6 科目(85.7%)であった。これらのうち、令和 4 年度に比べて 0.5 点以上の向上がみられた質問項目があった科目は、7 科目中 5 科目(71.4%)であった(表 5)。

### 3) 科目の学年比較 2 年次科目

2 年次の共通科目、PT 専門科目、OT 専門科目におけるアンケート項目の平均得点を、学年別に分類し、かつ令和 4 年度と令和 5 年度を比較した結果を以下に示す(表 6-8)。

共通科目では、令和 5 年度の「学生の姿勢」のうち、4.0 点未満を示したのは、20 科目中 2 科目(10.0%)であった。4.5 点以上を示したのは、20 科目中 1 科目(5.0%)であった。これらのうち、令和 4 年度に比べて 0.5 点以上の向上がみられた科目はなかった(表 6)。また、「授業に対する評価」の平均得点のうち 4.0 点未満を示したのは、20 科目中 0 科目(0.0%)であった。4.5 点以上の科目は、20 科目中 5 科目(25.0%)であった。これらのうち、令和 4 年度に比べて 0.5 点以上の向上がみられた質問項目があった科目はなかった(表 6)。

PT 専門科目では、令和 5 年度の「学生の姿勢」のうち、4.0 点未満を示した科目は 12 科目中 0 科目(0.0%)であった。これらのうち、4.5 点以上の科目、令和 4 年度に比べて 0.5 点以上の向上がみられた科目はなかった(表 7)。また、「授業に対する評価」の平均得点のうち 4.0 点未満を示したのは、12 科目中 0 科目(0.0%)であった。4.5 点以上の科目は 12 科目中 6 科目(50.0%)であった。これらのうち、令和 4 年度に比べて 0.5 点以上の向上がみられた質問項目があった科目はなかった(表 7)。

OT 専門科目では、令和 5 年度の「学生の姿勢」のうち、4.0 点未満を示したのは、12 科目中 1 科目(8.3%)であった。これらのうち、令和 4 年度に比べて 0.5 点以上の向上がみられた質問項目があった科目は、12 科目中 7 科目(58.3%)であった(表 8)。また、「授業に対する評価」の平均得点のうち 4.0 点未満を示したのは、12 科目中 1 科目(8.3%)であった。4.5 点以上の科目は、12 科目中 1 科目(8.3%)であった。これらのうち、令和 4 年度に比べて 0.5 点以上の向上がみられた質問項目があった科目はなかった(表 8)。

### 4) 科目の学年比較 3 年次科目

3 年次の共通科目、PT 専門科目、OT 専門科目におけるアンケート項目の平均得点を、

学年別に分類し、かつ令和4年度と令和5年度を比較した結果を以下に示す(表9-11)。

共通科目では、令和5年度の「学生の姿勢」のうち、4.0点未満を示したのは、4科目中0科目(0.0%)であった。4.5点以上を示した科目はなかった。これらのうち、令和4年度に比べて0.5点以上の向上がみられた質問項目があった科目は、4科目中3科目(75.0%)であった(表9)。また、「授業に対する評価」の平均得点のうち4.0点未満を示したのは、4科目中0科目(0.0%)であった。4.5点以上の科目は、4科目中2科目(50.0%)であった。これらのうち、令和4年度に比べて0.5点以上の向上がみられた質問項目があった科目は、4科目中3科目(75.0%)であった(表9)。

PT専門科目では、令和5年度の「学生の姿勢」のうち、4.0点未満を示した科目は13科目中0科目(0.0%)であった。これらのうち、4.5点以上を示した科目は、13科目中3科目(23.1%)であった。令和4年度に比べて0.5点以上の向上がみられた質問項目があった科目は、13科目中2科目(15.4%)であった(表10)。また、「授業に対する評価」の平均得点のうち4.0点未満を示したのは、13科目中0科目(0.0%)であった。4.5点以上の科目は、13科目中7科目(53.8%)であった。これらのうち、令和4年度に比べて0.5点以上の向上がみられた質問項目があった科目は、13科目中7科目(53.8%)であった(表10)。

OT専門科目では、令和5年度の「学生の姿勢」のうち、4.0点未満を示したのは、16科目中1科目(6.3%)であった。4.5点以上の科目はなかった。これらのうち、令和4年度に比べて0.5点以上の向上がみられたのは、16科目中13科目(81.3%)であった(表11)。また、「授業に対する評価」の平均得点のうち4.0点未満を示したのは、16科目中0科目(0.0%)であった。4.5点以上の科目は、16科目中3科目(18.8%)であった。これらのうち、令和4年度に比べて0.5点以上の向上がみられた質問項目があった科目は、16科目中14科目(87.5%)であった(表11)。

## 5. 考察

学生の姿勢に対する自己評価の得点は、令和5年度の1年次の共通科目とPT専門科目で4.0点未満であった。4.0点未満を示した科目の割合は、1年次共通科目で27科目中24科目(88.8%)、PT専門科目で5科目中3科目(60.0%)であり、他の学年の科目割合よりも高い割合を示している。1年次の共通科目とPT専門科目の質問項目ごとの平均得点は、問1の「あなたは予習をして授業に臨みましたか」と問2の「あなたは復習をして授業に臨みましたか」の項目が、中央値の3.0点よりは高いものの、3.11点から3.5点に移している。

これらの理由は、学生が能動的に学習活動を行う仕掛けが乏しいためであると考えられる。講義の前後に予習や復習の指示が少ないことや、教員が一方向的な知識伝達を行う講義で授業を構成しており反転授業やPBLなどアクティブラーニングの手法が効果的に実施されていないことが理由として挙げられる。令和2年度にFD研修会でアクティブラーニングの研修会を行ったが、今後も継続的にアクティブラーニングの授業手法を、研修会を通して学習し、教員の授業に応用し、実践することで教員の資質向上を図る必要がある。

授業に対する評価の得点は、表2の学年別比較をみると4.0未満の科目はなかった。また、1年次OT専門科目、2年次と3年次のPT専門科目は4.5点以上を示した。加えて、令和4年度と比較して令和5年度では3年次の共通科目で0.5点以上の向上がみられた。さらに、3年次のOT科目においてもいくつかの質問項目で0.5点以上の向上がみられた。この理由は、科目担当教員の説明や用いられる教材、授業の内容、シラバスに明示される事前情報と実際との齟齬、到達度の明確さを科目担当教員が修正した結果、令和4年度よりも令和5年度で改善した可能性がある。今後も授業を構成する要素を継続して改善する活動を行っていく必要がある。

表1：授業評価アンケート

分類	問い番号	質問項目
学生の姿勢	問1	あなたは予習をして授業に臨みましたか。
	問2	あなたは復習をして授業に臨みましたか。
	問3	あなたは授業のマナーを守って受講しましたか。
	問4	あなたは意欲的に質問や発言をしようとしたか。
	問5	あなたは自身の授業態度を総合的にみて良かったですか。
授業に対する評価	問6	教員の説明はわかりやすかった。
	問7	授業内容は理解できるレベルであった。
	問8	教員の話し方は聞き取りやすかった。
	問9	教員はビデオ、スライド、プリントや板書などは適切であった。
	問10	教員は準備を十分にし熱意をもって授業を進めた。
	問11	授業内容は学習するに見合った量であった。
	問12	教員は学生の反応や意見を受け入れた。
	問13	授業の要点や議論が明確であった。
	問14	学生便覧のシラバス(授業内容)は参考になった。
	問15	授業内容を理解できた。
	問16	教員は1回ごとの授業に目的をはっきり示した。
	問17	この科目の基礎的な知識技術が身に付いた。
	問18	興味関心を覚える授業であった。
	問19	教員は授業の最初に科目全体の到達度を説明した
	問20	この授業は総合的にみて良かった。